

# 血液内科

教授 小島 研介

## 県全体の血液診療レベル向上をめざすワン・チームとしての取り組み

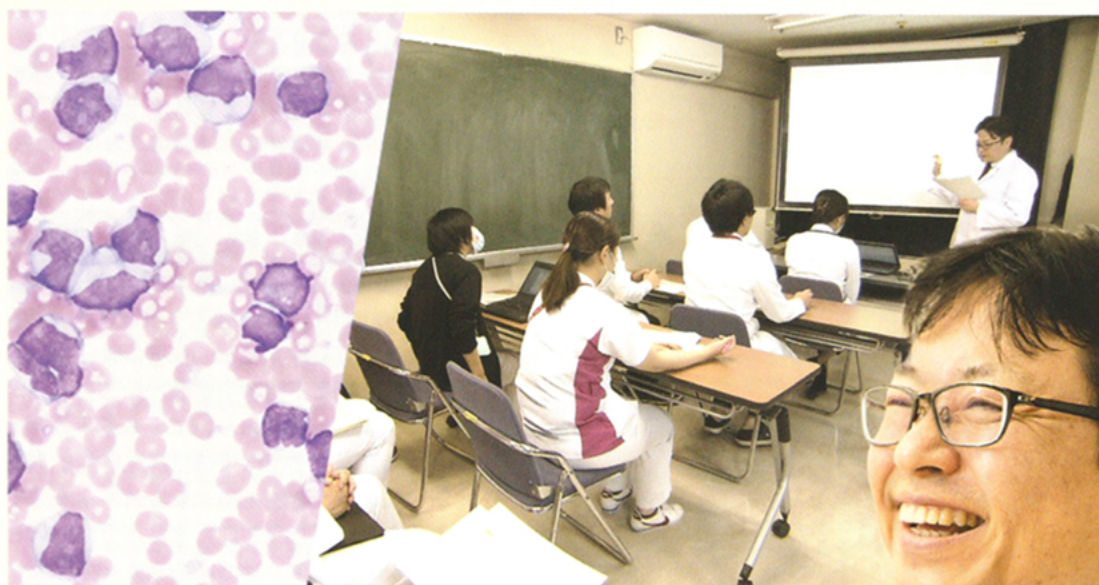
**血** 液内科では、体の中で血液が作られる過程や免疫の異常によって起こる血液異常の診断と治療を担当します。

特に年齢とともに頻度が増加する血液がんは、高齢化が急激に進む高知県においては、最重要課題となっています。さらに本県は、昔から母乳感染するウイルス(HTLV-Iウイルス)によって発症する白血病・リンパ腫が多い地域としても知られています。

全国的に悪性リンパ腫などの血液がんが増加するなか、高知県内でアクティブに活動する血液内科専門医は10名程度と、他県に比べて非常に少ない現状において、2019年6月に高知大学医学部血液内科学講座が開講されました。本学医学部では優れた地域医療者を育てる「教育」と国際的な血液医科学の発展に貢献する「研究」を果たし、そして附属病院では最先端の血液「診療」を提供すべく、まだ少ないスタッフではありますが、この目標に向かってワン・チームとして堅実に駒を進めていきます。

血液がんは、抗がん剤で治癒させることができる数少ないがんの一つですが、抗がん剤には多くの副作用があります。そこで、がんを直接狙い撃つような治療(分子標的治療)の臨床応用が、現在、急ピッチで進んでいます。私は米国でもトップクラスのがん診療・研究施設であるMDアンダーソンがんセンターの白血病科 分子標的治療部の准教授を勤めた経験を生かし、本院においても患者さんの病態に応じた通常治療から移植医療に加えて、最先端の分子標的治療をハイレベルで提供していきたいと思っています。個別化分子標的治療は、まだ一部の血液がんに限られていますが、今後は多くの病気の治療に使えるようになっていくと期待されます。

他の診療分野と同様、血液内科領域でも医療機関の連携(病診・病病連携)は極めて重要であることから、高知大学・附属病院血液内科が中心となって、高知県全体の血液診療レベル向上、多職種連携にも積極的に取り組んでいます。



2020/2/9放送「おらんくの大学病院」より(画像提供 テレビ高知)